

26PA-pm097

Trichosporon asahii の高接着コロニー形態に特徴的な分子の探索

○市川 智恵¹, 池田 玲子¹ (¹明治薬大・感染制御)

【目的】 *Trichosporon asahii* は、深在性真菌症を引き起こす病原性酵母であり、特徴として多様なコロニー形態を示す。我々はこれまでにコロニー形態により細胞培養プレートへの接着性が異なることを報告した。本研究では *T. asahii* の高接着株に強く発現する分子を探索・同定した。

【方法】 *T. asahii* 臨床分離株から株化した形態の異なるコロニーとして white 株 (W)、off-white 株 (O)、yellowish-white 株 (Y) を用いた。各株の表層分子を SDS-PAGE 後、PVDF 膜へ転写したのち、CBB 染色および Periodic acid-Schiff stain (PAS 染色) を行った。高接着株に特徴的なタンパク質のバンドを切り出し、N 末端シーケンスにより分子を同定した。遺伝子をクローニングし、ヒト培養細胞で安定発現株を作製して発現と糖修飾を解析した。また、この分子に対する抗体を作製し、内在性タンパク質の検出を行なった。

【結果および考察】 高接着性を示す O-type 株に特徴的なバンドは、染色性から糖タンパク質と考えられた。この分子を培養細胞に発現させた結果、一部は細胞外へ分泌されていることが示された。また、安定発現細胞のライセートおよび菌体表層抽出物の糖鎖除去処理を行うと同分子のバンドサイズが小さくなることから糖鎖修飾が確認でき、糖タンパク質として接着性や病原性へ関与する可能性が示唆された。